

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.51 「金」だけど「欣」もいいな



令和3年の暮れ、最終の定例記者会見で「2021年 鳥羽市の10大ニュース」を発表しました。特に順位付けはしていないものの、「コロナ禍にあつて世間がうつむきがちになる中、何といつても鳥羽市を明るく勇気づけてくれた話題は、フェンシング山田優選手のオリリンピック金メダル獲得のニュースです。続いて記者から「市長の今年の漢字一字は？」と問われ、「ベタですが、やっぱり『金』でしょう、欣でもいいのですが」（欣一郎の欣は『よろこぶ』という意味なので）と答えました。

らのアドバイスを送ったりしました。子どもたちは、山田選手の一挙手一投足を目で追いかけて、憧れのアスリートの背中を見つめていました。私たち大人も含め、体育館にいる人の視線がすべて彼につられて移動する。金メダリストになるってこういうことかと改めて納得しました。



その山田選手、年明け早々に鳥羽の若者の前に凱旋してくれました。成人式にサプライズ登場しメッセージを伝えたくと思うと、翌日にはトーフショーとフェンシング教室で観客を魅了しました。参加した幼児から高校生を壇上に招き、メダルを首にかけてあげたり、模擬体験で一声かけなが

つていたのは鳥羽市民からのDVDでの応援メッセージだったそうです。山田選手は、「練習や試合の合間に繰り返し見たのが励みになった」と話してくれました。また、鳥羽のオリリンピック選手を応援する会のみなさんが早くから準備をされ、彼の母校である鳥羽高校の大教室でみんなまで応援しよう、大画面でパブリックビューイングしようと試みましたが、コロナ禍で実現できなかったのが悔やまれてなりません。次回こそは、うちわを振り、ステイックバルーンを打ち鳴らし、横断幕を広げて渾然一体となつて応援したいものです。パリまであと2年、あつという間です。市民一丸となつて支えていきましよう。



今回はコロナのこともあつて、オリリンピックの観戦は家庭や職場で、中にはスマホで、おのおのが応援していたことと思います。地元の声援が届きにくかつた中で、心の支えにな



Vol.210 市民課人権・市民交流係 ☎1126

『アンコンシヤス・バイアス』

わたしたちは、氏名、血液型および性別などその人の持つ個性や性格、国籍・人種、生活環境などにより、無意識のうちに思い込みや決め付けをしてしま

います。このような無意識の思い込みをアンコンシヤス・バイアス(以下「バイアス」といふ)と

「バイアス」といふ。これらは、自分を守ろうとする「エゴ」や、当たり前に行われてきた行動や常識が時代に合わなくなつているにも関わらず、気づかず固執してしまふ「習慣や慣習」、その人特有のこだわりやコンプレックスなどの「感情」により起こるとされており、これらの要因以外にも喜怒哀楽などさまざまな感情や気持ち、思いが一つとなつた自分では気が付かないモノの見方、とらえ方のゆがみや偏りが原因になるとい

れています。

バイアスは日常にあふれていて、誰にでもあるもので、あること自体が問題ではありませぬ。「普通そうだ」「こうあるべきだ」といった、無意識の思い込みや偏見から、自分の価値観や行動を相手に押しつけてしまふことで、知らないうちに差別や誹謗中傷などにつながり、さまざまな人権問題も起きています。

バイアスを解消するためには、まず、「決めつけない、押しつけない」を意識することです。そして、話の中で、相手の表情や態度の変化などに注目し、相手の表情が曇つた、声のトーンが変わつたなどのサインがあれば、フォローすることを心がけましよう。

仕事や家庭、仲間と過ごすとき、バイアスがあるとということ意識して相手と向き合い、自分の考え方と正反対のものや、批判的な意見にも目を配り、取り入れてみましょう。それらには、これまでの自分では気が付かなかつた貴重なヒントが隠れていることが多く、行動することでよりよい職場や社会の実現につながります。